

研究・調査報告書

報告書番号	担当
130	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Association of parents' alcohol use and family interaction with the initiation of alcohol use by sixth graders: a preliminary study in Taiwan 小学校6年生における親の飲酒状況、家族関係と飲酒開始の関係；台湾の基礎調査から	
執筆者	
Hung CC, Yen LL, Wu WC.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
BMC Public Health. 2009 Jun 4;9:172.	
キーワード	
初回飲酒、青少年、家族、台湾	
要 旨	
<p>目的： 家族は子供が社会を学び自己を形成する主要な環境である。前回の研究で思春期前の初回飲酒の予測因子を調査したが、飲酒量の少ない地域での子供たちの飲酒に関連する要因を調べた研究は少ない。この研究の目的は小学校6年生の初回飲酒時期を調べ、初回飲酒に関係する家族要因を決定することである。</p> <p>方法： この研究のデータは青少年行動長期成長(Child and Adolescent Behaviors in Long-term Evolution;CABLE)計画2002 (5年生で10-11歳であった者)、2003 (6年生で11-12歳であった者)の一部から得た。対象者計1,183名について調査した。主な調査項目は、子供の飲酒状況(1)飲んだことがない(2002または2003)(2)初回飲酒者 (2002はまだで2003には飲んでいる)；親の飲酒状況(1)両親ともに飲酒者(2)母が飲酒者で父がそうでない(3)父が飲酒者で母がそうでない(4)両親とも飲まない；親の関わり；家庭内対立。初回飲酒に関する要因をロジスティック回帰にて推計した。</p> <p>結果： 6年生で初回飲酒者になった者は183名(15.5%)であった。両親が飲酒者、親の関わりが少ない、家庭内対立が多いことが6年生における有意な初回飲酒の予測因子であった。家庭事情と親の飲酒状況は同程度に思春期前における初回飲酒の重要な予測因子であった。</p> <p>結論： 家庭の要因が子供の初回飲酒に影響することが明らかとなった。子供へのアルコールの影響について親に教育することが重要であり、予防に努めることが重要である。</p>	